

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第65回）議事要旨

1. 日 時 令和2年7月22日（水）10:30～12:15
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室・TV会議
3. 出席者 小森議長、石原評議員、井上評議員、郷評議員、小間評議員、佐藤評議員、永田評議員、永原評議員、長谷川評議員、早坂評議員、松本評議員、徳田評議員、金子評議員、井本評議員、斎藤評議員、常田評議員、竹入評議員、阿形評議員、鍋倉評議員、川合評議員、渡部評議員、室賀評議員、長谷部評議員、岡本評議員
(陪席者)
二宮監事、竹俣監事
(事務担当者)
岡田総務課長、田中企画連携課長、鈴木財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 野田管理部長、岡崎統合事務センター 竹田事務センター長、久保田財務部長 他
4. 配付資料
 - 1 教育研究評議会評議員名簿
 - 2 自然科学研究機構の概要
 - 3 自然科学研究機構 役員・副機構長 名簿
 - 4 教育研究評議会概要
 - 5-1 自然科学研究機構組織運営通則（抄）等
 - 5-2 機構長選考会議委員（案）
 - 6-1 評価の全体像について
 - 6-2 平成31事業年度及び第3期中期目標期間（平成28～31事業年度）に係る業務の実績に関する報告書について
 - 6-3 平成31事業年度及び第3期中期目標期間に係る業務実績報告書（案）
 - 7-1 学部・研究科等の現況調査表について
 - 7-2 学部・研究科等の現況調査表（国立天文台）
 - 7-3 学部・研究科等の現況調査表（核融合科学研究所）
 - 7-4 学部・研究科等の現況調査表（基礎生物学研究所）
 - 7-5 学部・研究科等の現況調査表（生理学研究所）
 - 7-6 学部・研究科等の現況調査表（分子科学研究所）
 - 7-7 （参考）研究業績説明書について
 - 7-8 （参考）研究業績説明書（国立天文台）
 - 7-9 （参考）研究業績説明書（核融合科学研究所）
 - 7-10 （参考）研究業績説明書（基礎生物学研究所）
 - 7-11 （参考）研究業績説明書（生理学研究所）
 - 7-12 （参考）研究業績説明書（分子科学研究所）
 - 8-1 達成状況報告書について
 - 8-2 達成状況報告書（案）

- 8-3 達成状況報告書別添資料
- 9-1 令和元事業年度決算（案）のポイント
- 9-2 財務諸表（案）
- 9-3 事業報告書（案）
- 9-4 決算報告書（案）
- 9-5 監事監査報告
- 9-6 独立監査人の監査報告書
- 10-1 令和3年度概算要求機能強化経費事項一覧（案）
- 10-2 令和3年度施設整備費概算要求一覧
- 11 第9回自然科学研究機構若手研究者賞記念講演について
- 12 令和2年度教育研究評議会開催日程

5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数の確認があった。また、小森議長から、資料1に基づき、今期の教育研究評議会評議員の紹介があった後、資料2及び資料3に基づき、機構の概要及び令和2年度の機構の体制について説明があった。引き続き、事務局から、資料4に基づき、教育研究評議会の関係諸規程について説明が行われた。

1) 機構長選考会議委員について

小森議長から、資料5-1に基づき、機構長選考会議委員について説明があり、審議の結果、資料5-2のとおり、機構長選考会議規程第3条第2号に掲げる委員として、石原評議員、井上評議員、郷評議員、小間評議員、佐藤評議員の5名が選出された。

2) 平成31事業年度及び第3期中期目標期間に係る業務実績報告書について

3) 学部・研究科等の現況調査表について

4) 達成状況報告書について

金子評議員から、資料6-1から資料8-3に基づき、平成31事業年度及び第3期中期目標期間に係る業務実績報告書、学部・研究科等の現況調査表並びに達成状況報告書について説明があり、審議の結果、案（資料6-2及び資料6-3、資料7-2から資料7-6、資料8-2及び資料8-3）について、議論を踏まえた修正を行った上で決定することが了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 研究者がURAとなり、国際共同研究を担当された後、再び研究者に戻るということは、非常にユニークなケースだと思うが、実際にどのような活動を行っていたのか。
- 核融合科学研究所において、若手の教授に3年間、国際交流担当のURAとして活躍してもらった。具体的には、国際協定締結に向け、相手方の機関との交渉や協定締結後の国際共同研究の活性化など重要な役割を担ってもらった。この間はURAという身分になるため、科学研究費補助金の申請ができなかったり、研究活動ができない、という制約があり、研究者に復帰する際に若干

の期間が必要となった。

- 項目68について、投稿件数及びページビューの数が増加していないにもかかわらず、着実に数を伸ばしたとの記載があるが、非常に高いレベルを維持したなどの記載のほうが適切ではないか。また、中間評価としてはIV評価、平成31年度はIII評価としているが、平成31年度の実績が大きく増加しているのでIV評価とすべきではないか。

また、若手研究者5名を顕彰し、その際に出身高校の学生を招待することは非常にユニークで有意義な取組であると思うが、さらにその高校生が理工系の大学に進んでいるのかなど、フォローアップ調査を行うことも検討してみてもどうか。

- 項目68については、御指摘を参考に再検討したい。
- 若手研究者支援について、腰を据えて研究できる安定的なポストが重要であると考えますが、機構として具体的にどのような取組を行っているか。
- 機構では、若手研究者を積極的に採用してきており、研究者全体に占める割合としては38%程度で第3期の目標を既に超えている状況にある。
- 分子科学研究所は、研究者の異動が活発であり、例えば准教授であれば、現在の中期目標期間においても半数以上が入れ替わっており、多くは大学の教員として転出している。大学共同利用機関として、共同利用・共同研究に加え、若手のPIの育成を目的とした若手独立フェロー制度を運用している。
- 機構では、若手研究者による分野間連携事業を実施するなど若手研究者の支援を行っており、各機関においても、若手研究者を海外の機関へ積極的に派遣するとともに、海外からシニアな研究者を招へいし、国際交流の場を設けている。また、大学の教員も対象としたトレーニングコースや研修などを各機関が主催し、人材育成を行っており、これも大学共同利用機関の重要な役割のひとつと考えている。
- 若手研究者について、アカデミアの世界だけでは限界があるので、産業界とのつながりも重要となるが、機構においてはどのような状況か。
- 分子科学研究所では、助教クラスでは企業への転出も多くなっており、アカデミアとのバランスも取れていると考えている。
- 核融合科学研究所では、研究者の受入れについて関連企業に対してお願いしているところであるが、企業側からすると博士の学位取得者は使いづらいということを知っており、苦慮しているところである。
- 民間企業との連携については、学術会議の科学委員会でもシンポジウムを行うなど情報の収集を行っているところであるが、化学系の企業では、新しいことを始めるときは博士の学位取得者のほうが使えるということで、積極的に採用する方向になってきていると企業の方からは聞いている。
- 女性研究者については、どのような状況になっているのか。
- 平成25年度に5%程度であった女性研究者の比率は、本年4月には13%まで増加しており、第3期の目標に達したが、大学等に比べてまだ低い水準にあるので、より一層努力していきたいと考えている。

5) 令和元年度決算について

徳田評議員から、資料9-1から資料9-6に基づき、令和元年度決算について説明があり、審議の結果、案(資料9-1から資料9-4)のとおり了承された。

6) 令和3年度概算要求について

徳田評議員から、資料10-1及び資料10-2に基づき、令和3年度概算要求について説明があり、審議の結果、案(資料10-1及び資料10-2)のとおり了承された。

7) 第9回自然科学研究機構若手研究者賞記念講演について

川合評議員から、資料11に基づき、第9回自然科学研究機構若手研究者賞記念講演について報告があり、意見交換が行われた。

(主な意見等は以下のとおり)

○ 魅力のある若手研究者の講演は、聞いた高校生にも良い影響があると思う。

8) その他

小森議長から、資料12に基づき、今年度の教育研究評議会の開催日程について説明があった。

以上